## I. 植生学会会長および運営委員選挙の結果について

2019 年 8 月 6 日に投票が締め切られた植生学会会長ならびに植生学会運営委員選挙の開票作業を 2019 年 8 月 11 日および 20 日に開催された選挙管理委員会で行い，以下のような結果となりましたので，ここに報告します．会長ならびに運営委員の任期は，2020 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までです．

植生学会会長・運営委員選挙管理委員会
委員長　比嘉基紀
委員　松村俊和
栃本大介
永松　大
石川愼吾

会長　投票数 123（有効票 123，無効票 0）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 当選 | 上條隆志 | 37 票 | |
| | 前迫ゆり | 32 票 | |
| | 冨士田裕子 | 21 票 | |
| | 中村幸人 | 12 票 | |

全国選出運営委員（1 号委員）　投票数 528（有効票 528，無効票 0）

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 吉川正人 | 36 票 | 2 号委員 |
| | 上條隆志 | 34 票 | 会長 |
| | 川西基博 | 29 票 | 2 号委員 |
| | 比嘉基紀 | 29 票 | 2 号委員 |
| 当選 | 前迫ゆり | 27 票 | |
| 当選 | 澤田佳宏 | 18 票 | |
| 当選 | 永松　大 | 17 票 | |
| 当選 | 伊藤　哲 | 16 票 | 辞退 |
| 当選 | 島野光司 | 14 票 | |
| 当選 | 平吹喜彦 | 14 票 | |
| | 中村幸人 | 12 票 | |
| | 星野義延 | 11 票 | |
| | 藤原道郎 | 10 票 | |
| | 津田　智 | 9 票 | |
| | 大橋春香 | 9 票 | |
| | 橋本佳延 | 9 票 | |

地区選出運営委員（2 号委員）

北海道・東北地区　投票数 28（有効票 28，無効票 0）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 当選 | 加藤ゆき恵 | 5 票 | |
| | 島田直明 | 5 票 | |
| | 佐藤雅俊 | 5 票 | |
| | 平吹喜彦 | 5 票 | |
| | 並川寛司 | 5 票 | |
| | 竹原明秀 | 5 票 | |

関東地区　投票数 121（有効票 121，無効票 0）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 当選 | 吉川正人 | 16 票 | |
| | 上條隆志 | 10 票 | 会長 |
| 当選 | 島田和則 | 8 票 | |
| | 大橋春香 | 7 票 | |
| | 村上雄秀 | 6 票 | |
| | 阿部聖哉 | 5 票 | |
| | 星野義延 | 5 票 | |
| | 磯谷達宏 | 5 票 | |

中部地区　投票数 32（有効票 32，無効票 0）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 当選 | 井田秀行 | 5 票 | |
| | 島野光司 | 5 票 | 1 号委員 |
| | 長池卓男 | 5 票 | |
| | 中田　誠 | 5 票 | |
| | 浅見佳世 | 5 票 | |

近畿地区　投票数 38（有効票 36，無効票 2）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 当選 | 黒田有寿茂 | 10 票 | |
| | 澤田佳宏 | 8 票 | 1 号委員 |
| | 前迫ゆり | 4 票 | 1 号委員 |
| | 橋本佳延 | 3 票 | |
| | 栃本大介 | 3 票 | |

中国・四国地区　投票数 20（有効票 20，無効票 0）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 当選 | 比嘉基紀 | 4 票 | |
| | 永松　大 | 4 票 | 1 号委員 |
| | 太田　謙 | 4 票 | |

九州・沖縄地区　投票数 14（有効票 14，無効票 0）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 当選 | 川西基博 | 4 票 | |
| | 伊藤　哲 | 3 票 | |
| | 西脇亜也 | 2 票 | |
| | 河野円樹 | 2 票 | |

## II. 運営委員会報告

以下の日程でメール審議を実施した．

1. ［R01-002: 採決］植生学会会長・運営委員選挙施行細則の改定及び臨時総会の開催について審議し，承認された（審議期間 2019 年 5 月 17 日から 24 日）．
2. ［R01-003: 採決］運営委員会推薦会長候補者の選出について審議し，運営委員会推薦会長候補者 5 名を選出した（審議期間 2019 年 2019 年 6 月 16 日から 25 日）．
3. ［R01-004: 採決］ワークショップ「生態系と歴史記憶を活かした防災・減災による景観再生－持続可能性とレジリエンスを高める震災復興－」の後援について審議し，承認された（審議期間 2019 年 7 月 30 日から 8 月 8 日）．
4. ［R01-005: 採決］2019 年度植生学会各賞の候補者の推薦について審議し，受賞者が決定した（審議期間 2019 年 9 月 6 日から 15 日）．
5. ［R01-006: 採決］植生学会の主催・共催・後援事業に関する申し合わせの制定（別掲 1）について審議し，承認された．また，大会運営規則の改定（別掲 2）について審議し，承認された．表彰委員会規則の改定（別掲 3）について審議し，承認された（審議期間 2019 年 10 月 1 日から 10 日）．

別掲 1.　植生学会の主催・共催・後援事業に関する申し合わせ

2019 年 10 月 10 日　制定

（趣旨）

第 1 条　この規則は，植生学会会則第 3 条 2 号及び同 4 号に基づき，植生学会の主催・共催・後援・協賛事業に関し必要な事項を定める．

（事業の別）

第 2 条　主催・共催・後援・協賛事業は以下の通り区別する．

主催事業　本会が実施計画を策定し，開催する事業

共催事業　本会と他の団体が共同で実施計画を策定し，開催する事業

後援事業　他の団体が実施計画を策定し開催する事業のうち，本会会則第 2 条で定める目的の達成に寄与するもので，本会が無償で協力するもの

協賛事業　他の団体が実施計画を策定し開催する事業のうち，本会会則第 2 条で定める目的の達成に寄与するもので，本会が出資して協力するもの

（事業の承認について）

第 3 条　主催・共催・協賛事業の実施計画は，運営委員会の議を経て決定する．

2　後援事業は，その内容が本会の目的達成に寄与するかを本会会長が精査し，その結果を運営委員会に報告する．

（雑則）

第 4 条　本規則の変更は運営委員会の決議による．

附則　2019 年 10 月 10 日制定

1.　この規定は 2019 年 10 月 11 日から施行する．

別掲 2.　植生学会大会運営規則

| 新 | 旧 |
|---|---|
| 植生学会大会運営規則<br><br>2019 年 10 月 10 日　改定 | 植生学会大会運営規則<br><br>2016 年 11 月 27 日　改定 |
| 第 1 ～ 2 条　〈省略〉 | 第 1 ～ 2 条　〈省略〉 |
| （大会開催機関）<br>第 3 条　学会会長は過去の実績に基づき次年度の大会開催機関を決定し，会員より大会実行委員長を指名する．学会会長は決定事項を前年度の総会で報告する． | （大会開催機関）<br>第 3 条　学会会長は過去の実績に基づき次年度の大会開催機関を決定し，会員より大会会長を指名する．学会会長は決定事項を前年度の総会で報告する． |
| 第 4 条　〈省略〉 | 第 4 条　〈省略〉 |
| （大会実行委員会）<br>第 5 条　当該年度の大会実行委員長は，大会の準備および運営のために，大会実行委員会を組織することができる．大会実行委員会は，年度ごとにそれぞれ存在することから，その名称の前に回数を附して区分する．大会実行委員会の内規は別に定める．<br>2　委員会は以下の事項を実施することができる．<br>(1)　開催日時の決定<br>(2)　会場の確保<br>(3)　大会・懇親会の開催<br>(4)　エクスカーションの開催<br>(5)　トレーニングスクールの開催支援 | （大会実行委員会）<br>第 5 条　当該年度の大会実行委員長は，大会の準備および運営のために，大会実行委員会を組織することができる．大会実行委員会は，年度ごとにそれぞれ存在することから，その名称の前に回数を附して区分する．大会実行委員会の内規は別に定める．<br>2　委員会は以下の事項を実施することができる．<br>(1)　開催日時の決定<br>(2)　会場の確保<br>(3)　大会懇親会の開催<br>(4)　エクスカーションの開催<br>〈新規〉 |
| 第 6 ～ 7 条　〈省略〉 | 第 6 ～ 7 条　〈省略〉 |

| | |
|---|---|
| 附則　2015 年 3 月 8 日制定<br>1.　本規則は平成 27 年 3 月 8 日から施行する.<br>2.　大会企画委員会設立年月日　平成 27 年 2 月 1 日<br>附則　2016 年 11 月 27 日　改定<br>1.　この規定は 2016 年 11 月 28 日から施行する.<br>2.　大会企画委員会を大会支援委員会に改称する.<br>附則　2019 年 10 月 10 日　改定<br>1.　この規定は 2019 年 10 月 11 日から施行する. | 附則　2015 年 3 月 8 日制定<br>1.　本規則は平成 27 年 3 月 8 日から施行する.<br>2.　大会企画委員会設立年月日　平成 27 年 2 月 1 日<br>附則　2016 年 11 月 27 日　改定<br>1.　この規定は 2016 年 11 月 28 日から施行する.<br>2.　大会企画委員会を大会支援委員会に改称する.<br>〈新規〉<br>〈新規〉 |

別掲 3.　植生学会表彰委員会規則

| 新 | 旧 |
|---|---|
| 植生学会表彰委員会規則<br><br>2019 年 10 月 10 日　改定<br><br>第 1 ～ 3 条　　〈省略〉<br><br>（任務）<br>第 4 条　表彰委員会は，会員の表彰に必要な活動を行う.<br>2　表彰委員会は，原則として年 1 回以上開催する。必要に応じて電磁的方法等による臨時の委員会を開催することができる.<br>〈削除〉<br><br>〈削除〉<br><br>〈削除〉<br><br>〈削除〉<br><br>〈削除〉<br><br>第 5 ～ 8 条　　〈省略〉<br><br>附則　2016 年 10 月 23 日制定<br>1.　植生学会表彰委員会設立年月日　2002 年 10 月 18 日<br>2.　この規定は 2016 年 10 月 24 日から施行する.<br>附則　2019 年 10 月 10 日　改定<br>1.　この規定は 2019 年 10 月 11 日から施行する. | 植生学会表彰委員会規則<br><br>2016 年 10 月 23 日　制定<br><br>第 1 ～ 3 条　　〈省略〉<br><br>（任務）<br>第 4 条　表彰委員会は，会員の表彰に関する活動を行う.<br>2　表彰委員会は，原則として年 1 回以上開催する。必要に応じて電磁的方法等による臨時の委員会を開催することができる.<br>3　表彰の種類は次の各号のとおりとする.<br>（1）植生学会賞<br>（2）植生学会奨励賞<br>（3）植生学会功労賞<br>（4）植生学会特別賞<br>（5）植生学会研究発表賞<br>（6）植生学会論文賞<br>4　第 4 条 3 項の 1 号から 4 号の候補者は，表彰委員会が会員の中より選定する．各賞の受賞者は，運営委員会の議を経て決定する.<br>5　第 4 条 3 項 5 号の受賞者は，表彰委員長が委嘱した審査員の協議によって決定する.<br>6　第 4 条 3 項 6 号の候補者の選定は，編集委員会に委嘱する．同賞の受賞者は，運営委員会の議を経て決定する.<br>7　第 4 条 3 項各号の受賞者は，総会および植生学会誌の学会記事にて会員に公表する.<br><br>第 5 ～ 8 条　　〈省略〉<br><br>附則　2016 年 10 月 23 日制定<br>1.　植生学会表彰委員会設立年月日　2002 年 10 月 18 日<br>2.　この規定は 2016 年 10 月 24 日から施行する.<br>〈新規〉<br>〈新規〉 |

2019 年 10 月 5 日に弘前大学創立 50 周年記念会館において定例の運営委員会を開催した．審議事項は以下の通り．

1. 2018 年度収支決算（案）について審議した．
2. 亀井基金の予算執行計画の見直しについて審議した．
3. 2019 年度収支予算（案）について審議した．
4. 植生学会会長選挙の候補者の推薦の課題・問題点について審議した．
5. 投稿規程および執筆要領の改定について審議し，承認された（別掲 4，5）．
6. 第 25 回大会（2020 年）の開催地について審議し，承認された．

別掲 4.　植生学会誌投稿規程

| 新 | 旧 |
|---|---|
| 植生学会誌投稿規程 | 植生学会誌投稿規程 |
| 1. 〈省略〉 | 1. 〈省略〉 |
| 2. 〈省略〉 | 2. 〈省略〉 |
| 3. 植生学会誌は以下の種類の原稿を掲載する．<br>① 原著論文（Original article）：植生学に関する有意義な知見を含み，まとまった結論が得られる段階まで研究が進展しているもの．<br>② 短報（Short communication）：断片的あるいは萌芽的な研究ではあるが，植生学に関する有意義な新知見を含み，速報性を重視できるもの．<br>③ 〈省略〉<br>④ 〈省略〉<br>⑤ 資料・報告（Material and report）：〈削除〉データそのものに公表の価値があると判断できるものおよび植生学会員に有益と考えられる学術情報に関する報告記事．いずれも，解析・考察を伴わないもの．<br>⑥ 〈省略〉<br>ただし，④解説・意見，⑤資料・報告，⑥書評については情報誌「植生情報」への掲載を原則とする．当該原稿の植生学会誌への掲載は，編集委員会において妥当と判断された場合に限る． | 3. 植生学会誌は以下の種類の原稿を掲載する．<br>① 原著論文（Original article）：独創的な内容で，植生学に関する価値ある結論あるいは有意義な新事実を含むもの．データの質・量とも十分で，まとまった結論が得られる段階まで研究が進展しているもの．<br>② 短報（Short communication）：断片的あるいは萌芽的な研究ではあるが，独創的な内容で，植生学に関する価値ある結論あるいは有意義な新事実を含み，速報性を重視できるもの．<br>③ 〈省略〉<br>④ 〈省略〉<br>⑤ 資料・報告（Material and report）：資料はデータそのものに公表の価値があると判断できるもの．報告は植生学会員に有益と考えられる学術情報に関する報告記事．いずれも，解析・考察を伴わないもの．<br>⑥ 〈省略〉<br>ただし，④解説・意見，⑤資料・報告，⑥書評については情報誌「植生情報」への掲載を原則とする．当該原稿の植生学会誌への掲載は，編集委員会において妥当と判断された場合に限る． |
| 4. 〈省略〉 | 4. 〈省略〉 |
| 5. 〈省略〉 | 5. 〈省略〉 |
| 6. 原稿の採否および種別は編集委員会が決定する．受付けられた原著論文，短報，総説の原稿は，担当編集委員のもとで匿名専門家による校閲を受ける．〈省略〉 | 6. 原稿の採否および種別は編集委員会が決定する．受付けられた原稿は，著者が希望する原稿の種別に基づき，担当編集委員のもとで匿名専門家による校閲を受ける．〈省略〉 |
| 7. 〈省略〉 | 7. 〈省略〉 |
| 8. 〈削除〉本文等と図表，投稿原稿送付状を 1 つの PDF ファイルにまとめて電子メール（原則として 3MB 以内）で送付する．メールで投稿する際の件名およびファイル名は「SVS- ○○○○」（○○は投稿者のローマ字姓）とする．<br>〈削除〉 | 8. 原稿は次の A または B のいずれかの方法で作成して送付し，必要事項を記入した最新の投稿原稿送付状を添付すること．<br>A. 本文等と図表，投稿原稿送付状を 1 つの PDF ファイルにまとめて電子メール（原則として 3MB 以内）で送付する．メールで投稿する際の件名およびファイル名は「SVS- ○○○○」（○○は投稿者のローマ字姓）とする．<br>B. 本文等と図表の全てを 3 部（コピー可）印刷して，投稿原稿送付状とともに郵送する． |
| 9. 〈省略〉 | 9. 〈省略〉 |
| 10. 〈省略〉 | 10. 〈省略〉 |
| 付則 1. この規程は 2019 年 10 月 6 日より適用する（2019 年 10 月 6 日改定）． | 付則 1. この規程は 2016 年 11 月 11 日より適用する（2016 年 11 月 10 日改定）． |
| 付則 2. 〈省略〉 | 付則 2. 〈省略〉 |

別掲 5. 執筆要領

| 新 | 旧 |
|---|---|
| 植生学会誌執筆要領 | 植生学会誌執筆要領 |
| 1 ～ 3.　〈省略〉 | 1 ～ 3.　〈省略〉 |
| 4. 引用文献は本文中に引用したものすべてを著者のアルファベット順に記載する．著者が 8 名以上の場合，最後の著者を除き，第 7 著者以降の名前を省略しても構わない．記述は下記の例および最新号の形式に準ずる． | 4. 引用文献は本文中に引用したものすべてを著者のアルファベット順に記載する．〈新規〉記述は下記の例および最新号の形式に準ずる． |
| 〈省略〉 | 〈省略〉 |
| 石渕隆広・笈木秀治・大原　雅・加藤　徹・島田　薫・須賀　丈・… 鷲谷いづみ．1999．マルハナバチ一斉調査（第二報）．保全生態学研究，**4**: 71-75. | 〈新規〉 |
| 〈省略〉 | 〈省略〉 |
| Mucina, L., Bültmann, H., Dierßen, K., Theurillat, J.-P., Raus, T., Čarni, A., … Tichý, L. 2016. Vegetation of Europe: hierarchical floristic classification system of vascular plant, bryophyte, lichen, and algal communities. Applied Vegetation Science, **19**（Suppl. 1）: 3-264. | 〈新規〉 |
| 5 ～ 13.　〈省略〉 | 5 ～ 13.　〈省略〉 |
| 14. 図（写真も含む），表等は 1 枚ずつ別紙に刷り上がり相当の大きさで書き，著者の責任において作製すること．また，〈削除〉各図表の挿入希望位置を本文原稿の右側余白に指定すること（最終原稿では朱書き）． | 14. 図〈新規〉，表等は 1 枚ずつ別紙に＜新規＞書き，著者の責任において作製すること．＜新規＞また，図表の欄外余白に図表番号を振るとともに，各図表の挿入希望位置を本文原稿の右側余白に指定すること（最終原稿では朱書き）． |
| 15 ～ 21.　〈省略〉 | 15 ～ 21.　〈省略〉 |
| 22. Appendix のうち , 編集委員会が必要性を認めたものは誌面に掲載する．以下の内容のものは，編集委員会の判断の下，J-STAGE に電子付録として掲載することができるものとする． | 22. Appendix のうち , 編集委員会が必要性を認めたものは誌面に掲載する．以下の内容のものは，編集委員会の判断の下，J-STAGE に電子付録として掲載することができるものとする． |
| ・採択の可否とは無関係の図表（現場の写真，フロラリスト，組成表，植生調査資料，プログラムコードなど）で，かつ著者が公表を希望するもの． | ・採択の可否とは無関係の図表（現場の写真，フロラリスト，組成表，植生調査資料，〈新規〉など）で，かつ著者が公表を希望するもの． |
| ・採択の可否とは無関係の図表で編集委員会が公表を依頼し，かつ著者が公表を承諾したもの． | ・採択の可否とは無関係の図表で編集委員会が公表を依頼し，かつ著者が公表を承諾したもの． |
| 23. 〈省略〉 | 23. 〈省略〉 |
| 付則 1. この要領は 2019 年 10 月 6 日以降に投稿された原稿に適用する（2019 年 10 月 6 日改定）． | 付則 1. この要領は 2016 年 11 月 11 日以降に投稿された原稿に適用する（2016 年 11 月 10 日改定）． |
| 付則 2. 〈省略〉 | 付則 2. 〈省略〉 |

## III. 編集委員会報告

以下の日程でメール審議を実施した．

1. ［R1-1: 意見聴取］植生学会誌の投稿規程・執筆要領の改定案について意見聴取を行った（聴取期間 2019 年 7 月 31 日から 8 月 14 日）．
2. ［R1-2: 採決］植生学会誌の投稿規程・執筆要領の改定案について審議し，承認された（審議期間 2019 年 8 月 21 日から 8 月 28 日）．

2019 年 10 月 5 日に弘前大学創立 50 周年記念会館において定例の編集委員会を開催した．審議事項は以下の通り．

1. 次号の植生情報の特集について審議した．
2. 投稿論文の増加を促すための対策について審議した．

## IV. 企画委員会報告

2019 年 10 月 5 日に弘前大学創立 50 周年記念会館において定例の企画委員会を開催した．報告・審議事項は以下の通り．

1. 亀井基金（運営委員会メール審議において名称について審議・了承）による，「若手研究者助成制度」の新設について運営委員会で審議，2019 年 4 月 16 日付けで承認された．2019 年度中に募集，審査し，助成することが確認された．
2. 2019 年度も学会開催地および新潟大学佐渡自然共生科学センター演習林でトレーニングスクールを開催することが確認された．修了者には修了証を発行することとした．
3. 「シカと植生の全国アンケート調査」を 2018 年 3 月付けで植生学会ホームページ（http://shokusei.jp/sika.html）で公開し，データ収集・解析を行った．2019 年 1 月，7 月，9 月に植生学会ホームページにおいて中間報告を行った．2019

年度植生学会大会で概要報告をポスター展示することが報告された．なお Pro Natura ファンドの研究助成としては 2019 年 10 月で終了，12 月に報告する．その後，植生学会誌に投稿の予定である．

4. 東日本大震災以後，被災した海岸植生のモニタリング調査と保全活動についてワーキンググループが組織され，積極的な地域活動が行われてきた．2018 年度には新メンバーによって「東日本大震災プロジェクト フェーズ 2」（愛称は「とうほく海辺の植物研究会」）が立ち上がり，「海辺のセミナー」（2018 年 11 月 4 日，2019 年 1 月 27 日，3 月 2 日，5 月 19 日）や「海辺のエコツアー」（2019 年 5 月 26 日，7 月 27・28 日）が開催されるなど，植生学会企画委員会が主催するかたちで地域密着型の調査・保全活動に向けての基盤形成が図られた．また，メンバー個々が関係するシンポジウム等の学術活動においても，運営委員会のメール審議・承認の下で，植生学会からの後援・協力が実現したことが報告された．今後も引き続き，活動を継続することが確認された．
5. 本会会員橋本氏（兵庫県立人と自然の博物館）より，植生調査資料の蓄積に関するアンケート調査への調査協力依頼があり，運営委員会でメール審議，承認された（2019 年 1 月）ことが報告された．
6. 2019 年 4 月に開催された日本生態学会大会（神戸）において，「大きな攪乱からの海浜植生の回復ポテンシャル（群落談話会）」と題して，自由集会が企画された（http://www.esj.ne.jp/meeting/abst/66/W10.html）（担当: 澤田，前迫）．2020 年の名古屋大会でも自由集会を企画（外来種の侵入と定着プロセス: 担当　前迫ほか）する．
7. 日本の植生の現代の動きと魅力をわかりやすく概説する書籍を刊行するため，コンテンツと著者の検討を行うこととした．
8. 植生資料のデータベース化について，横浜国大（小池氏）と兵庫県立人と自然の博物館（橋本氏）との調整は継続することについて確認した．

## V. 表彰委員会報告

以下の日程でメール審議を実施した．

1. ［R1-1: 採決］2019（令和 1）年度学会賞 1 名，奨励賞 1 名，論文賞 1 件の受賞候補者について審議し，承認された（審議期間 2019 年 8 月から 9 月）．

2019 年 10 月 5 日，6 日に弘前大学創立 50 周年記念会館において定例の表彰委員会を開催した．審議事項は以下の通り．

1. 2019（令和 1）年度口頭発表賞，ポスター発表賞の審査の体制について確認し，意見交換を行った．
2. 第 24 回大会における発表賞の審査を実施し，口頭発表賞 1 件，ポスター発表賞 1 件を決定した．
3. 各賞の在り方や候補者の選定について意見交換を行い，今後の方針について検討した．

## VI. 群集属性検討委員会報告

2019 年 10 月 5 日に弘前大学創立 50 周年記念会館において群集属性検討委員会を開催した．審議事項は以下の通り．

1. 環境省の植生図整備に伴い設置されている植生図更新検討委員会での植生図凡例の属性整理について，オブザーバーの成ヶ沢久仁子さん（アジア航測）より報告いただいた．
2. 委員会としてのアウトプットについて審議し，群落属性の整理に関して公表可能な成果から発表すること，植生図更新検討会との情報交換を今後も継続していくことを確認した．

## VII. 大会支援委員会報告

2019 年 10 月 5 日に弘前大学創立 50 周年記念会館において大会支援委員会を開催した．審議事項は以下の通り．

1. 第 24 回大会の支援，特に問題点について検討した．
2. 第 25 回大会の支援について検討した．

## VIII. 2019 年度総会報告

2019 年 10 月 6 日（日）に弘前大学創立 50 周年記念会館において 2019 年度総会が開催され，以下の事項が報告または承認された．

A. 報告事項

1. 学会事務局報告

2019 年 9 月 17 日現在の会員数（正会員 484 名，団体会員 11 団体，賛助会員 1 団体）が報告された．

2. 各種委員会報告

上記 I ～ IV の運営委員会，各種委員会の審議事項が報告された．

3. その他

第 25 回大会の運営代表者として鹿児島大学の川西基博氏より，多数の参加が要請された．

B. 承認事項

1. 2018 年度収支決算（別掲 6，7）について
2. 2019 年度予算案（別掲 8，9）について

## IX. 学会賞

2019 年度の学会各賞の受賞者は以下の通り．授与式は 2019 年 10 月 6 日に弘前大学創立 50 周年記念会館で行われ，石川会長より各受賞者に表彰状と記念品が贈呈された．

学会賞　並川寛司（北海道教育大学札幌校）

奨励賞　鐵　慎太朗（東京農工大学大学院連合農学研究科）

論文賞　阿部聖哉．自然環境保全基礎調査植生調査データにもとづく準絶滅危惧種 69 種の生育環境類型化（植生学会誌第 35 巻 2 号 67-88 頁掲載，2018 年 12 月発行）

研究発表賞

口頭発表賞　鈴木莉野・星野義延（東京農工大・院）・岩崎浩美・千葉徹也・佐藤萌子（東京都水道局）東京都水道水源林におけるスズタケの開花と生育環境

ポスター発表賞　松田直樹（筑波大・院・生命環境）・二木隆裕（筑波大）・浅野眞希・高橋純子・山路恵子・上條隆志（筑波大・生命環境系）三宅島 2000 年噴火荒廃地における遷移初期種の葉の窒素・リン利用特性と土壌の関係

別掲 6.　植生学会 2018 年度一般会計収支決算　（単位: 円）

| 収入の部 | 予算 | 決算 | 差異 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 前期繰り越し | 2,903,774 | 2,903,774 | 0 | |
| 会費 | 3,040,000 | 2,910,000 | −130,000 | 一般 372, 学生 33, 団体 10, 賛助 1 |
| バックナンバー売り上げ | 20,000 | 6,700 | −13,300 | |
| 雑収入 | 500,000 | 336,362 | −163,638 | |
| | | （45,792） | | 著作権使用料など |
| | | （278,640） | | 別刷・超過ページなど |
| | | （11,930） | | アンケート用封筒（橋本） |
| 利息 | 500 | 28 | −472 | |
| 計 | 6,464,274 | 6,156,864 | -307,410 | |
| **支出の部** | **予算** | **決算** | **差異** | **備考** |
| 植生学会誌刊行費 | 2,000,000 | 1,887,698 | 112,302 | 第 35 巻 1 号・2 号（別刷印刷費を除く） |
| 植生情報刊行費 | 400,000 | 532,940 | −132,940 | 第 22 号 |
| 学会事務局経費 | 900,000 | 582,003 | 317,997 | 学会事務局・会計事務局経費を含む<br>19 年度に入ってからの経費精算のための払い込み手数料を含む |
| 編集委員会経費 | 40,000 | 3,600 | 36,400 | |
| 企画委員会経費 | 400,000 | 67,148 | 332,852 | |
| 表彰委員会経費 | 50,000 | 43,834 | 6,166 | |
| 大会補助費 | 350,000 | 350,000 | 0 | 第 23 回大会 |
| 予備費 | 2,324,274 | 55,620 | 2,268,654 | 別刷印刷費 |
| 計 | 6,464,274 | 3,522,843 | 2,941,431 | |
| 収支差額（繰り越し） | 0 | 2,634,021 | | |

別掲 7.　植生学会 2018 年度特別会計収支決算　（単位: 円）

| 収入の部 | 予算 | 決算 | 差異 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 前期繰り越し | 5,000,000 | 5,000,000 | 0 | 10 月 9 日に特別会計口座に移動 |
| 計 | 5,000,000 | 5,000,000 | 0 | |
| **支出の部** | **予算** | **決算** | **差異** | **備考** |
| 国際学術発表助成事業 | 150,000 | 0 | 150,000 | |
| 国際植生学会派遣事業 | 300,000 | 210,747 | 89,253 | 3 人派遣（川西，比嘉，松村） |
| 研究助成 | 150,000 | 0 | 150,000 | |
| 植生情報データベース化 | 150,000 | 0 | 150,000 | |
| 書籍刊行 | 0 | 0 | 0 | |
| そのほか（雑費） | 30,000 | 0 | 30,000 | |
| 計 | 780,000 | 210,747 | 569,253 | |
| 収支差額（繰り越し） | 4,220,000 | 4,789,253 | −569,253 | |

## X.　植生学会第 24 回大会報告

植生学会第 24 回大会（実行委員長: 石川幸男）が，2019 年 10 月 5 日～ 7 日にかけて下記日程で弘前大学創立 50 周年記念会館および青森県白神山地にて開催された．一般講演では口頭 21 題，ポスター 25 題の発表があった．また，特別セッション 4 題（エクスカーション説明会含む），企画委員会ポスター 1 題の講演があった．参加者は事前申込者 106 名，当日参加者 7 名の計 113 名であった．

10 月 5 日　各種専門委員会・運営委員会
10 月 6 日　一般講演（口頭発表，ポスター発表），特別セッション，学会賞各賞授与式，総会，学会賞受賞者講演，エクスカーション説明会，懇親会
10 月 7 日　エクスカーション（白神山地）

一般講演は以下のとおりであった．

〈口頭発表〉

A01　府中市浅間山における種組成からみたスゲ属植物の生育

別掲 8.　植生学会 2019 年度一般会計収支予算　（単位: 円）

| 収入の部 | 2019 年度 | 2018 年度 | 差異 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 前期繰り越し | 2,634,021 | 2,903,774 | −269,753 | |
| 会費 | 2,908,000 | 3,040,000 | −132,000 | 一般 426, 学生 58, 団体 11, 賛助 1（9 月 17 日現在） |
| バックナンバー売り上げ | 20,000 | 20,000 | 0 | |
| 雑収入 | 500,000 | 500,000 | 0 | |
| 利息 | 500 | 500 | 0 | |
| 計 | 6,062,521 | 6,464,274 | −401,753 | |
| **支出の部** | **2019 年度** | **2018 年度** | **差異** | **備考** |
| 植生学会誌刊行費　1,000,000 円× 2 回 | 2,000,000 | 2,000,000 | 0 | 第 36 巻 1 号・2 号 |
| 植生情報刊行費　400,000 円× 1 回 | 400,000 | 400,000 | 0 | 第 23 号 |
| 学会事務局経費 | 900,000 | 900,000 | 0 | |
| 編集委員会経費 | 40,000 | 40,000 | 0 | |
| 企画委員会経費 | 400,000 | 400,000 | 0 | |
| 表彰委員会経費 | 50,000 | 50,000 | 0 | |
| 大会補助費 | 300,000 | 350,000 | −50,000 | 第 24 回大会 |
| 予備費 | 1,972,521 | 2,324,274 | −351,753 | |
| 計 | 6,062,521 | 6,464,274 | −401,753 | |

別掲 9.　植生学会 2019 年度特別会計収支予算　（単位: 円）

| 収入の部 | 2019 年 | 2018 年 | 差異 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 前期繰り越し | 4,789,253 | 5,000,000 | −210,747 | |
| 計 | 4,789,253 | 5,000,000 | −210,747 | |
| **支出の部** | **2019 年** | **2018 年** | **差異** | **備考** |
| 国際学術発表助成事業 | 150,000 | 150,000 | 0 | |
| 国際植生学会派遣事業 | 300,000 | 300,000 | 0 | |
| 研究助成 | 150,000 | 150,000 | 0 | |
| 植生情報データベース化 | 150,000 | 150,000 | 0 | |
| 書籍刊行 | 0 | 0 | 0 | |
| そのほか（雑費） | 30,000 | 30,000 | 0 | |
| 計 | 780,000 | 780,000 | 0 | |
| 収支差額（繰り越し） | 4,009,253 | 4,220,000 | −210,747 | |

立地特性．髙橋　歩・吉川正人（東京農工大・院・農）

A02　本州中部上流域河川の高水敷における希少植物群落の特性および外来植物との関係について．中原美穂（信大院・総合理工学研）・大窪久美子（信大・学術研究院農学系）

A03　東京都水道水源林におけるスズタケの開花と生育環境．鈴木莉野・星野義延（東京農工大・院）・岩崎浩美・千葉徹也・佐藤萌子（東京都水道局）

A04　餌植物の生育密度に依存したニホンジカの資源利用．大崎晴菜（弘前大学）・千本木洋介（南会津町役場）・坂本祥乃（(株) 野生動物保護管理事務所）・宮本留衣（(株) テンドリル）・田島美和（(一財) 自然公園財団）・奥田圭（広島修道大学）・山尾僚（弘前大学）

A05　ニホンジカによる長期の採食を受けた林床植生の回復過程―四国山地三嶺山域さおりが原に設置した防鹿柵における事例―．池田華優・石川愼吾・比嘉基紀（高知大・院・理）

A06　国指定天然記念物鯉ヶ窪湿原の植生とモニタリング．波田善夫・太田　謙（岡山理科大学）

A07　西別湿原におけるウシ攪乱後の植生．佐藤雅俊（帯畜大）

A08　鹿児島市喜入地区におけるハマサジ個体群の分布と動態．岩元鈴夏・川西基博（鹿児島大・教育）

A09　巨大地震・津波直後の砂浜海岸エコトーンにおける地形・植生応答と攪乱抵抗性の検出．平吹喜彦・佐藤祐二朗（東北学院大学 地域構想学科）・菅野　洋（東北緑化環境保全（株））・平山英毅（東京情報大学大学院 総合情報学研究科）・富田瑞樹・原　慶太郎（東京情報大学 総合情報学科）・岡　浩平（広島工業大学 地球環境学科）

A10　津波被災低地の植生管理．浅見佳世（常葉大学）

A11　国内における植生調査資料の蓄積状況～学会アンケートの結果から．橋本佳延（兵庫県立人と自然の博物館）

B01　霧ヶ峰におけるスキー場が持つ植生保全の役割．新井聡

一郎（信州大学理学部）・島野光司（信州大学理学部）

B02 モロッコ南西部の乾燥帯における種組成と生育環境の関係．川田清和（筑波大学）・Charradi Youssef・Mohamed El Fadili・Mohammed Yessef（ハッサン 2 世農獣医大学）・藤井義晴（東京農工大）・礒田博子（筑波大学）

B03 兵庫県の棚田に分布する畦畔草原の種組成・種多様性と気候条件の関係．江間　薫（兵庫県立大・院・環境人間）・黒田有寿茂・石田弘明（兵庫県立大・自然・環境研）

B04 ホソバシャクナゲ群落とその立地．中西　正（鳳来寺山自然科学博物館）

B05 能勢町の巨木，ツブラジイ（大阪府指定天然記念物）はスダジイだった．小林悟志（冒険の森）

B06 六甲山の南側地域に分布するヒメユズリハ林の生態的特性．石田弘明（兵庫県立大学自然・環境科学研究所）

B07 日本と中国に共通して分布するコナラ属樹木の分布特性．比嘉基紀（高知大・理工）・松井哲哉・中尾勝洋（森林総研）・田中信行（東京農大）・Zhiheng Wang（北京大学）

B08 西表島の植物の多様性ホットスポットはどこか？ ―全島調査から見えてきた植物相と植生の分布パターン―．設樂拓人（琉大）・遠山弘法（国環研）・指村奈穂子（日本自然環境専門学校）・山本武能（琉大）・古本　良（林育セ）・石垣圭一（琉大）・井村信弥（琉大）・内貴章世（琉大）

B09 植生の観察情報のデータベースについて．松村俊和（甲南女子大）・比嘉基紀（高知大）・川西基博（鹿児島大）

B10 衛星リモートセンシングデータを用いた機械学習による植生図化手法の検討．原　慶太郎（東京情報大学）・Ram Sharma（東京情報大学）・平山英毅（東京情報大学）・富田瑞樹（東京情報大学）

〈ポスター発表〉

P01 海浜植物イソスミレの汀線－内陸傾度における出現位置とハビタットの種組成．黒田有寿茂（兵庫県大・自然研）・鐵　慎太朗（東京農工大・院）

P02 空中写真に基づく鳥取砂丘海岸植生の歴史的変遷．永松大（鳥取大 農）・赤松幹久（鳥取大 地域）

P03 歌川広重「六十余州名所図会」に描かれた海岸マツ林の植生景観．澤田佳宏（兵庫県立大学・緑環境景観マネジメント研究科／淡路景観園芸学校）

P04 植生学会企画委員会「東日本大震災プロジェクトフェーズ 2」活動報告．大渕香菜子（東京農業大）・島田直明（岩手県立大）・平吹喜彦（東北学院大）

P05 岩手県陸前高田市における湿原性希少植物再生実験地の 2 年間の消長．島田直明・齊藤幸四郎（岩手県大・総合政策）

P06 戦場ヶ原湿原における 40 年前との植物分布比較―モニタリングサイト 1000 の調査から―．吉川正人（東京農工大・院・農）・加藤　将・横井謙一（WIJ）・樋口正信（国立科博・植物）

P07 草原跡地における間伐・下刈り管理に伴う草原生植物の動態．井上雅仁（島根県立三瓶自然館）・高橋佳孝（西日本農研センター）

P08 霧ケ峰高原におけるフランスギクをはじめとしたキク科外来植物の分布及び群落特性．辻　琴音（信大農（現所属: 林野庁））・大窪久美子（信大・学術院・農学系）

P09 “ハスカップ” 史～北海道石狩低地帯南部の湿原利用の一例．小玉愛子（みちくさ研究所 in 苫小牧）

P10 クマガイソウの結実率に関わる景観構成要素．奈良侑樹（東京情報大・院・総合情報）・原　慶太郎（東京情報大・総合情報）

P11 高知県の暖温帯天然生渓畔林の植生構造（予報）～林床植生と樹木の散布型から～．秋山琴音（高知大・院・理）・比嘉基紀（高知大・理工）

P12 暖温帯のヒノキ人工林における 17 年間の林床植生の変化．酒井　敦（森林総研東北）・稲垣善之（森林総研四国）

P13 高知県の小集水域における維管束着生植物の分布特性（予報）．瀬戸美文（高知大・院・理）・比嘉基紀（高知大・理工）

P14 亜熱帯常緑広葉樹人工林に侵入した樹種構成とサイズ比較．谷口真吾（琉球大学農学部）

P15 異なる光環境に生育する落葉樹 3 種の開芽時期の調節における光受容器官の特定．大野美涼・山尾　僚（弘前大・農生）

P16 熱帯季節乾燥林における樹木フェノロジーの灌漑による変化．吉田圭一郎（横浜国大・教育）・濱　侃（横浜国大・日本学術振興会特別研究員）・宮岡邦任（三重大学・教育）

P17 三宅島 2000 年噴火荒廃地における遷移初期種の葉の窒素・リン利用特性と土壌の関係．松田直樹（筑波大・院・生命環境）・二木隆裕（筑波大）・浅野眞希・高橋純子・山路恵子・上條隆志（筑波大・生命環境系）

P18 Occurrence of plant species in three types of agroforestry patches neighboring each other in East Java, Indonesia. Yasa Palaguna Umar, Tomohiro Hirayama, Satoshi Ito, Momoka Matsukura, Takuro Mizokuchi, Adi Setiawan, Yasushi Mitsuda, Ryoko Hirata（University of Miyazaki）, Tsuyoshi Kajisa（Kagoshima University）, Hagus Tarno, Kurniawan Puji Wicaksono, Arifin Noor Sugiharto（University of Brawijaya）

P19 硫気孔に隣接する冷温帯落葉広葉樹林を対象とした UAV 観測の有効性の検討．富田瑞樹（東京情報大学）・菅野洋・木村　啓・岡田真秀（東北緑化環境保全株式会社）

P20 環境省植生図を用いた植生解析 広島県南西部の事例．森定　伸（株式会社ウエスコ）・佐久間智子（中外テクノス）・岡井陽平（株式会社ウエスコ）・波田善夫・豊原源太郎

P21 伊豆大島三原山における外来草食動物キョン増加後の林分構造と種組成．中嶋美緒（筑波大・院・生物資源科学）・上條隆志（筑波大・生命環境系）

P22 練馬区立牧野記念庭園の過去・現在の写真から見る植生の変化．伊藤千恵（練馬区立牧野記念庭園記念館）

P23 1/2.5 万植生図凡例設定のための大規模データベースを用いた群落分類の試行．則行雅臣（東京農工大・院，中外テクノス）・吉川正人・星野義延（東京農工大・院）

P24 イノシシ生息域におけるモウソウチク林の新稈発生状況―植生図化の基礎情報として―．藤原道郎（兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 / 淡路景観園芸

学校）

P25　四国におけるニホンジカによる植生への被害分布状況．渡部雄貴・長谷川千尋・比嘉基紀・石川愼吾（高知大・理）

〈特別セッション〉

SA　青森の植生

SA1　津軽の山・川・湿原，そして低地のブナ林．齋藤信夫（青森自然誌研究会）

SB　植生・分布情報解析

SB1　序列化手法（ordination）の考え方と使い方．松村俊和（甲南女子大）・川西基博（鹿児島大）

SB2　点過程モデルを用いた分布予測．比嘉基紀（高知大）

〈企画委員会ポスター発表〉

K01　ニホンジカによる日本の植生への影響．シカと植生に関するアンケート調査（2018 ～ 2019）報告．植生学会シカと植生の調査プロジェクト（植生学会企画委員会）

## XI.　会員移動（2019 年 5 月から 2019 年 11 月まで）

1.　新入会員（*学生）

上野　聖子

津田　美子*　岐阜大学流域圏環境科学研究センター

奈良　侑樹*　東京情報大学大学院総合情報学専攻

鈴木　莉野*　東京農工大学大学院農学専攻

松田　直樹*　筑波大学生命環境科学研究科生物資源科学専攻

渡部　雄貴*　高知大学理学部植物生態学研究室

加倉井理佐*　東京農工大学農学部地域生態システム学科

大野　美涼*　弘前大学農学生命科学研究科

中嶋　美緒*　筑波大学大学院生命環境科学研究科生物資源科学専攻

大崎　晴菜*　弘前大学農学生命科学研究科

伊東由緑子*　兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科

遠藤　　慧*　横浜国立大学大学院環境情報学府

2.　退会

平田晶子，亀井陽太郎，横山　茂，小泉武栄，坂本喜久子，高橋万裕，三瀬章裕，山尾　僚

3.　宛先不明

杉村康司，奥田　賢，仲山真希子，山崎香陽子，奥田　圭，畑中由紀，前川恵美子，羽二生亜衣，黛　絵美，池田　茂，LI HAO，川瀬　彩，高橋瑛乃，張　秀龍